

171-0014 東京都豊島区池袋4 - 17 - 10 土屋ビル4F

AA

日本ニュースレター No.96

## 『アルコールクス・アノニマス』(ビッグブック) 個人の物語付き・HC版発刊! 出版局

皆さまお待たせしました。ようやくビッグブック(個人の物語付き・ハードカバー版)が出来上がりました。

1979年に始めて日本語版として発刊されたアルコールクス・アノニマス(ビッグブック)は、発刊されて以来20年間に渡り苦しんでいるアルコールクの命を救い、生きかたの指針を示し続けてきました。どれ程多くのドラマを演出してきたことでしょうか。今日のAAの礎としても重要な役割を果たして来た事に対し高い評価を送られ事でしょう。又当時翻訳出版に関わられた方々に対し敬意を示すものです。

とは言え、20年の歳月は日本のアルコールクの体質、アルコールクを取りまく環境を、少しづつ変えてきました。勿論アルコールクの本質は変わり得ないのですが、底着きが浅くなったこと、年齢層が若くなったこと、女性の参加が増えたこと、又医療福祉の関係者が積極的にアルコール問題に取り組み、AAにも関心を払って頂いただき、様々な形の恒常的応援が続けられたこと等が有ります。

更には海外に住む日本語を話すメンバ-からの情報の提供、及び海外メンバ-・グル-プとの交流が頻繁になりました。

大まかに深い思慮もなく拾い上げましたが、これは「変わった」と言う概念よりも「歩み、成長」と言う概念の方が正しい様に思っています。

その中から20年間の財産としてビッグブックに対する様々な意見が出版局に届けられ、ビッグブックの翻訳改訂の提案、二度に渡る評議会審議及び決定となったのでした。

この決定を受け、翻訳をニューヨークのGSOに依頼しGSOでは翻訳会社に依頼しました。間もなく試訳を手にしたのですが私達の心に届く文章とは言い難く、この案は断念し、次にこれまでもAAの翻訳出版物に関わって戴いたプロのAAメンバーをお願いしました。しかし、彼は作業半ばで肺の病気のために続けられなくなりました。これも断念し新たな案を模索していました。

この頃担当の常任理事が変わりました。当時の彼(現在の私ですが)はビッグブックに格調高さを求めていました。

“パイブル性”と“生きることがどうにもならなくなった”の信奉者です。作業の行き詰まりと方針の混乱が起り、一夏を掛け(1)AAを知らないアルコールクへのメッセージ性の向上(2)分かりやすく親しみ易い文体(3)適切でない表現特に誤訳の訂正を基本方針として取り組むことを話し合い、AAの友人でもあり翻訳にも評判のよかったプロの翻訳者をお願いすることにしました。

殆ど出来上がり、AA25周年に余裕を持って間に合うと考えていたところに日本語に詳しいAAメンバーから辛辣でしたが建設的で重要な提案、(全文書き直し提案と内部では言ってます)があつてそれを受け入れ出版局では支離滅裂な日々をこなし、2000年2月の評議会を迎えました。この時の評議会で承認されたポケットサイズのビッグブックを持って、これまで4年に渡って取り組んできた翻訳改訂ビッグブックが評議会承認出版物になったのです。その後、ハードカバー版ビッグブックの編集に取り組みました。

個人の物語3点の追加掲載のため、原稿の募集、原稿の選定委員会の編成、等多くの方々に協力をお願いしました。選定委員会についてはAAメンバー以外の方々からも快く協力を引き受けて戴きました。又原稿については11点の応募がありました。アメリカを比較の対象にするとまだまだ少ないのですが、この次の機会にはもっと多くのメンバーから寄せられるものと信じています。

97年から取り組み始めたこの大型プロジェクトは、今回のハードカバー版ビッグブックの発刊を持ってひとまず終わりです。当初の編集理念が十分に生かされ、多くの“今苦しんでいるアルコールク”の心に私達の思いが届くように願っています。

そんな思いから表面的な事を拾ってみましたが見えていないところ、至らなかつたところも沢山あるでしょう。見えるところで協力できた人も見えないところで協力した人も「今苦しんでいるアルコールクに手をさしのべる」との思いは同じです。しかし出版に関しては、大型プロジェクトが終わるたびに良き協力者を失う、そんな心配が頭をよぎります。物書き・翻訳者は、自分が担当したものには自分そのもの・自分という人格がそこにあると言います。そこに注文を付ける苦しさもあります。私のオの無さが招く心配事なのですが、今後多くの仲間の知恵ハイパーパワーの配慮によって上手く協力し合える様になるものと信じています。

ビッグブック取り組み終了に当たって・・・担当理事 金田

全文625ページの大型書籍になりました。簡単に、内容の構成をお知らせします：

日本語版序文2篇(1979年初版本のもの)と2002年個人の物語付き版のもの) / 英語版前書き、英語版序文4篇(初版~4版) / 医師の意見 / 第1章ビルの物語~第11章未来への展望 / ドクター・ボブの悪夢 / 個人の物語12編(初版本から9編と新しいもの3編) / 付録7編

2000年に発刊された翻訳改訂版『アルコールクス・アノニマス』は、英語版の第1~11章、ドクター・ボブの物語、序文、付録で構成されており、個人の物語は付いていませんでした。英語版にも同様の物があります。しかしAAの共同創始者ビル・Wは、「ビッグブックに掲載されている個人の物語は、私たちが思っているよりもはるかに重要である。個人の物語の部は、私たちがAAの外の人たちと出会うための不可欠の道具であり、またAAミーティングで仲間たちが話しているのをその場で聞くのに等しい読み物であり、さらには私たちの成果を展示するショーウィンドーでもあるのだ」と書き(ビルの手紙。第4版表紙カバー折込記事より)、個人の物語の果たす大切な役割を説いています。そして、昨年11月に27年ぶりで英語版の改訂第4版が発刊されましたが、これには42編の個人の物語が収録されました。

今回発刊されたビッグブックには日本人メンバー12名の個人の物語が収録されております。今回の新アルコールクス・アノニマスも旧版同様、それ以上に利用されることを願っています。

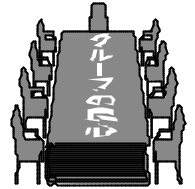


評議会のお知らせ 第8回全国評議会 テーマ「グループと評議会・サブテーマ；全体サービスの棚卸し」  
2003年2月9, 10, 11日東京・深川・ホテルB & G

2002年も後2ヶ月あまりとなりました。2月に開催された評議会の勧告を常任理事会が執行する中でサブテーマにうたわれた棚卸しの機会が次々に訪れてきたようです。苦しんでいる人たちは圧倒的に多数であり、AAの愛の手が差し伸べられている所はあまりにも少ないのが現状だと考えます。

これからAAができることは一人一人のメンバーがグループと評議会を通し自らの回復をサービスと一体性と共に進めることだと思います。

自分の手が届く範囲はもちろんそれ以外のサービスが必ず届けられるようにしたいという責任を共に感じられることができますよう祈ります。新しい評議員の選出もそれぞれの地域で行われている事と思いますが、来年2月の評議会でもAAの目的のために活発な議論が交わされるよう願っています。



## 「AA日本広報資料」の活用について

### 常任理事会広報委員会

このほど出版局から新しく発刊しました「AA日本広報資料」を各グループ宛に1冊づつ送付いたしました。ご覧いただけましたでしょうか。この「AA日本広報資料」は新しい刊行物でもあり、活用をお願いを兼ねまして若干のご説明をいたします。

この出版物は「広報資料」とタイトルにもうたっており、広報、すなわちAAのプログラムを知らずに未だ苦しんでいるアルコール依存症の人に直接メッセージを運ぶことではなく、彼ら、彼女たちを取り巻く周囲、社会の方々にAAを知ってもらい、間接的にメッセージを運ぶという目的のためにAAの全体像、特に日本のAAを概観を知っていただく基礎資料として編集、刊行されたものです。

原本はアメリカ・カナダ評議会承認出版物の「A.A. Fact File」ですが、そのままの翻訳では日本の現況と合わない部分もあり、他の資料も加味し日本で使用するために編集をしたものです。内容はメンバーの皆さんにとって目新しいものではないと思いますが、これまでこのような形でまとめられた出版物が無かっただけに大いに活用していただけるものと期待しています。

日本のAAを取り巻く広報の状況は、これまでいわゆる専門家といわれる関係者の方々を中心にすすめられてきましたが、最近マスメディアなどによる社会一般に対する広報もまだ僅かですが、以前に増して広がりつつあります。またメンバー個々の足による広報活動も確実に存在していますし、病院関係、矯正施設関係のメッセージも絶えることなく続けられています。

「AAって何ですか？」AAを知らない方からそう聞かれたとき、これまでのメッセージ先で担当者が変わったとき、行政関係の方に説明するとき、AAのことをもう少し詳しく知りたいという方に、この「AA日本広報資料」は利用できるものと思います。

先日、滋賀県近江八幡市で「広報&病院施設フォーラム」を開催いたしました。その折り、3紙の新聞記者が取材に訪れた時も「AA日本広報資料」を手渡し、見てもらいながらAAを説明することで容易に理解していただけたのではないかと思います。

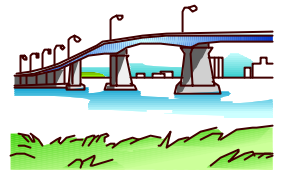
広報活動は地味でメッセージ活動とは異なり目に見える形でAAのプログラムを知らずに未だ苦しんでいるアルコール

依存症の直接の手助けにはなりません。AAのプログラムを誤りなく関係者を含めた社会一般の人に知ってもらうことで、AAのプログラムを必要とする人が一人でも多く、AAのプログラムに触れる機会をつくることを目的としています。

頒布価格は200円です。活用方法は広報活動以外にも多々あると思いますが、是非活用していただけるようお願い申し上げます。

## 第1回AA日本広報&病院施設フォーラムIN滋賀が開催

第1回AA日本広報&病院施設フォーラムが9月29日、滋賀県近江八幡市の近江八幡男女共同参画センターで開催されました。



このフォーラムは、AAの存在と回復のプログラムを広く一般社会に知っていただき、間接的にメッセージを運ぶという広報委員会の役割に基づき、AA日本常任理事会主催で開催されたものです。

当日は関係者等90名、AAメンバー117名、新聞記者（京都新聞、毎日新聞、中日新聞）3名 合計210名が参加しました。

木村常任理事会議長の開会の挨拶と司会で始まり、高橋広報担当理事の「AAとは何か、匿名性について」

工藤病院施設担当理事の「神・ハイヤ・パワ・とアルコール依存症からの回復の個人の物語」、今井元病院施設担当理事の「アメリカにおけるアルコール依存症からの回復とAA」

湯浅元WSM評議員の「世界に広がるAAの回復のステップ」の話で午前の部をおわりました。

午後からは野崎J.S.O所長の司会により、滋賀県庁の健康対策課の熊越祐子さん、長浜保健所の梶本（すぎもと）まどかさん、平野かよ子さん（AA類常任理事）岡崎直人さん（元WSM評議員）の4名によるパネルディスカッション「日本のアルコール依存症の現状とAA」がおこなわれました。

次に、関西C.O職員の新村さんより、「関西AAと連絡をとるには」の話のあと、参加者全員が壇上にならび、J.S.O所長・野崎さんの司会で質疑応答がおこなわれました。

参加者のある医師からは「こういう話し合いの機会がこれまでなかったのが残念、自助グループと医療機関とが良好な関係を作っていく必要がある」と話された他、多数の参加者から活発な意見・質問・感想などが出され、成功裏に終了しました。

会の後、懇親交歓会がおこなわれ多くのメンバ - から参加関係者にメッセージが届けられ交流の種がまかれた。やがて芽をだし花を咲かせるよう、私たちメンバ - は更にいっそうのサービス活動に立ち上がりたいと話が出され、盛況裡におわたったこの経験を次に伝えるのも私たちの責任であることを確認しあいながら帰路に着きました。

病院施設担当理事 工藤



## マスメディアへの広報

私は滋賀県でのフォーラムにて常任理事会広報委員の元山氏と共にマスメディアに「イベントに来て取材をしていただく」ことを目的に行動しました。病院・施設に関しては地元の実行委員会のメンバーや各グループメンバーが足を運びイベントの存在を知らせてくれていましたので、私たちはサービスマニュアルを今一度読み返し、担当理事とも協議し、日本のAAとしてまだまだ未開拓の分野であるマスメディアへ広報をすることに専念しました。「外部にAAの存在を知らせる」言葉で言うのは簡単です。しかし今回、私たちは自分たちの共同体の存在にいつのまにか当たり前になっていますがマスメディアにAAはほとんど認知されていないことを痛感しました。今回私たちが連絡したのは新聞社・TV局・ラジオ局・出版社です。当初、電話でアポをとり、お会いしAAの説明をして関心を持っていただいたら来ていただけないか？という思いだったのですが、各メディアにとってアルコール問題は「番組・記事・社会問題のひとつ」であり、すべてではないこと、そして分単位で行動するマスメディアの方々にとって1ヶ月先のイベントは、かなり先の事だったようです。結果的にマスメディアの方々にはお会いできず、電話で趣旨説明と取材依頼をしてFAXで資料をお送りすることが最初の行動でした。私たちは当初、少なくとも関西（近畿）全域に載せて（放送して）いただければと考えて大阪を中心とした各社へ連絡をしていましたがイベント開催地が滋賀県であるために何社からは「滋賀支局へ」と言われ、滋賀県の各社へ連絡を取り、資料を再度FAXで送付しました。

FAXではイベントの主旨、チラシ、プレアンブル、第三章、第六章などをお送りしました。また直前になって担当者や部署名が明確な数社へは郵送にてさらに資料を送りました。これには滋賀のメンバーの力もお借りしました。この頃には滋賀県・京都府の新聞社やTV局にターゲットを絞りました。郵送したものはイベントの主旨・AAに関する説明文・「絵で見る12の伝統」の11のコピー・リーフレット「保健医療関係者の皆様へ」「専門家向けニュースレター」などです。メンバーのアノニシティへの配慮も含めて前日までに連絡をいただきたいとお願いしていましたが結局は連絡が1本もないまま滋賀に向かうことになり、元山氏共々「当日はお茶係でもしょうか」などと言っていた次第でした。

結局、午後の部になり3社の新聞社（中日新聞・京都新聞・毎日新聞）の方々に来ていただきました。撮影に関してメンバーの顔を撮影しないことはもちろんのこと、壇上においてもB類常任理事、JSOスタッフは撮影しないようお願いし、各社の記者の方々には理事と共に3人で取材を受けさせていただきました。記者の方々には事前にお送りしていた資料を読んでくれていたようでAAの活動に理解を示していただけっていたようです。

夢のようでした。開催までに時間がなかったことや元山

氏共々仕事をしながらの活動でしたので各メディアの方々と会うこともできないまま、一方的に資料を送っていたのですから期待する方がおかしいのかもしれませんが。しかし、取材を終え、会場の片づけをしているときに私はAAで1つのイベントを終えたときに感じる「独特の充足感」に満たされていました。それは自分のことではないからこそ感じる喜びでした。ハイパーパワーに感謝しました。

AAミーティングが少なく地理的にも琵琶湖が県を分断する独特の地理条件がある滋賀では「アルコール依存症の方は見殺し状態です」という関係者の方の言葉をメンバーから聞きました。一人でも多くのアルコール依存症のAAの存在が伝えられれば？。三誌の記事を見たとき、これをどこかのアルコール依存症の方々が見ていてくれることを思うと私の責任が少し果たせたと感じています。今は、この経験は次の地域へ受け渡したいと考えています。

常任理事会広報委員会：八木

## 「関西ヤングで何かしよう / AA関西ヤング 公開ミーティングで」

「もう話すだけやと進まへんから宿だけでも押さえてしまお」というところから、AA関西ヤングの公開ミーティングは始まりました。関西ヤングミーティングの存在を知って欲しい、結構人数いるから何かできるやん、ということを経て考えたのです。AAのことを知らない人にも来てもらいたいということで公開（＝オープン）ミーティングにすることに決めました。

広報には皆不慣れで、「AAのこと、曲げて伝えてるんちゃうかな？」とぐったりしたところに、「飲んでないところを見てもらうだけ」という先行く仲間のフォローがありました。話し合いも、それぞれにうまいわけではなく、僕なんかまともなもの飲む前以来の久しぶりでどうかな、と思っていたのですが、誰かが（僕が）落ち込めば、他のメンバがさっと拾い上げるようで、そういうことは、なかなかうまく機能したのではないのでしょうか。

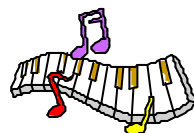
当日は、準備の時から宿泊の、遠くの仲間が来てくれて分かち合える場面もあり、なんだかいいなと思ってるとお話、ミーティングが始まりました。若くして飲み始めること、早い段階だから得られなかったもののことが身にしみし、それでも、同年代の人が多くと淋しさのようなものが減るようです。

バーベキュー、関西の仲間がどんどん焼いてくれる肉、音楽やギター、炎に照らされておしゃべりする、いろんなところから参加してくれる仲間たち。夜の24Hルームでごろごろ寝っ転がって、たわいもない話をする、アイスクリームを食べる。本当はこういうことのために、公開ミーティングをしたのかもしれませんが。

今回僕は、例えば目に見えるものだけでも、初対面の人に説明すること、腰を据えて話し合うことなど、たくさん物をまた貰ってしまった、という思いがとても強いです。

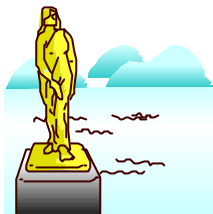
役割を集中させたり、甘い予算立てで困ったり、それよりもっとデリケートな、問題点は多かったけれど、棚卸しでは皆で臆せずにどんどん思ったことが出し合えたように思います。そのことができてなによりも良かった。本当に感謝しています。またしたいな、どうですか？今度は僕らの苦手な

もの、もっと若者らしいはつらつとしたものを。なんて。



北大阪地区 / 茨木稲穂G / ケーシー

## 東北ラウンドアップ



9月22日・23日に開催されました  
「2002年AA東北ラウンドアップ in  
田沢湖」は、開催会場の地理的悪条件

にもかかわらず全国から88名の皆様にご参加してください、盛会のうちに終了することができました。仲間が自身の話に会場の皆さんがうなずいたり笑いの渦になったり、日本語を話せない仲間の話を他の仲間が通訳する場面があったり、和やかで暖かい雰囲気で行進しました。振り返ってみると参加者全員で盛り上げ、作り上げたラウンゲップでした。

約半年前からラウンゲップの打ち合わせが始まり、成り行きで実行委員長をさせていただくことになりましたが、何も出来ない無力な自分に直面しました。出来ると思っていたことが、実際にやろうとすると出来ませんでした。不安と恐怖が先走り、ふさぎこんでしまいました。飲みたくなりました。途中で投げ出さなくなりました。それでも最後まで投げ出さずにすんだのは、仲間のフォローとまわりの理解と協力のお陰だったと感謝しています。今までは思いっくままその場限りで、計画し協力し合って1つのことを最後までやり遂げた覚えがありませんが、この半年間は打合せに休まないで毎回参加する事が出来ました。そして仲間と共に目標に向かって1つのことを一緒に行う喜びもいただきました。秋田の病院にメッセージを運び続けてくださった青森の仲間のお陰でAAと出会い、97年1月15日に盛岡でAAミーティングを初体験し、暖かく迎え入れていただきました。その後何度もスリップを繰り返しましたが、今また自分の居場所をいただいています。今回のラウンドアップでも居場所をいただきました。プログラムを終えて会場を後にする皆さんの笑顔が忘れられません。もう二度と実行委員などゴメンだと思いましたが、またお手伝いさせていただくの悪くないと思いはじめています。皆さんと共に飲まない喜びを分かち合い、たくさんの仲間と出会えたことに感謝いたします

秋田 G. サト

## 北海道ラウンドアップ



初めて北海道のラウンドアップに参加させていただいた。

アルコールと友達の頃には何回か北海道旅行に来たことがあるがアルコールの問題が解決してからはほんの数回の来道しかない。

酒びたりの頃の思い出は、有名観光地に行った、ここで飲んで、ただ単に地名だけの思い出しか残っていない。

この頃の自分は点の旅ではなく線の旅がたく、又少しずつ線の旅が出きる様になり、目的地までの間を自分なりに楽しみ現地に着ける様になった事に自己満足している、又今回は公費でのラウンドアップ参加で多少の気持の負担はあったが、そんな事に覆われずに参加することに気持を切り替えて

の参加である。

自分の頭の中にある事は、日頃声だけの分かち合いの方々、はたまた名前(ニックネーム)なのか、本名(姓)なのか名前(名)なのか、一人の方が二つも、三つも呼び名があるみたいで仲間の方の顔と名前が交錯して名前と顔が一致せず、日頃の挨拶もろくろく出来ずに過ごしているので、今回は整理して日頃ご指導頂いている方々にお礼をすると同時に多くの経験の分かち合いを頂きたくラウンドアップに参加いたしました。

札幌に着いて早速仲間の方にセントラルオフィスへ案内していただき、日々サービスに務めておられるスタッフに(初めてお会いする)挨拶し、札幌市内のミーティング会場を横目で見ながらの市内観光にでかけた。

車中の会話は皆共通の話題である過去の自分の経験や、今後のAAの成長発展の為の願望だったり、余り車窓を楽しむ事が出来ず夕食が待ちきれなくなりました。

南は沖縄と全国各地から総勢250人の参加で会場は熱気に溢れおり、いずれの地域の方々もそれぞれ自分たちが受けたAAの恩恵を他の方々にいかに伝えようかと思案されている心根に感銘した。

当日も仲間の方の車でラウンドアップ会場に案内していただき、会場の玄関に入るとなぜか意も言われぬ安堵感と又他の旅行者の方々とはなぜか雰囲気の独特さも感じたがこれが又AAであるとの再認識もした。

近年のラウンドアップで感じる事は、暫く前のラウンドアップと比較してどこと無く華美な(贅沢)内容になりつつある様な感じを受けるのは自分の目が段々に老化したのか、はたまた自分の回復が中座してしまったためなのか?

しかし多くの方々が色々和智慧を絞って何ヶ月も前から計画し地域の特色を生かしたラウンドアップが開催されて又新しい方々がAAグループのメンバーであることを認識し寄り良い生活を再構築される機会に成ったであろう事は大変に嬉しい事だと感じました。今後は各地域自主性もあるだろうが開催時期を調整し合うような事が出来ないかとも感じました。

又いつか機会を捕らえ北海道ラウンドアップに参加させてもらおう時を楽しみに日々を過ごして生きたいと考えております。有難うございました。

J S O

### 第17回

#### ワールドサービスミーティングより

10月6日から10日にかけてスペインのオビエドで開催されたワールドサービスミーティングは「AAメッセ - ジ 境界のないメッセ - ジ」というテーマで世界の34カ国41名の評議員によって分かち合われた。アイルランドの評議員は基調報告の中で次のように述べた。

「私の出身地では、境界という言葉をよく使う。アイルランドには、北と南を分ける境界がある。二つの政府、二つの法的システム、二つの保健制度、二つの教育局、二つの違った通貨がある。二つの全国的なフットボールチームさえある。私の故郷の町であるベルファストには、違った宗教と政党の人々を分ける境界がある。しかしアイルランドでもたった一つのものが一つだけある。それはただ一つのAAであり、境界のないメッセ - ジである」

## AA日本ニューズレターNo. 96

編集・発行：AA日本ゼネラルサービスオフィス(JSO) 〒171-0014 東京都豊島区池袋4-17-10 土屋ビル4F

TEL:03-3590-5377 FAX:03-3590-5419 ホームページ：<http://www.cam.hi-ho.ne.jp/aa-jso/>